

しきしまの家が中学生のアイデアを商品化、 樹齢千百年「貞観杉」の枝を活用したペア守り

2024

1



つながったストーリー



旭地区敷島自治区の村落が形成された平安時代から千年余にわたり、しきしまの里を見守ってきた国指定天然記念物「貞観杉」。令和5年2月、樹木医の診断により樹幹の傾きを矯正するため直径50cmほどの枝3本が伐採されました。

杉本神明神社から、剪定枝とはいえ粗末にはできないと活用方法について「しきしまの家」に相談があり、そこに豊田市立旭中学校の生徒のアイデアから貞観杉で「お守り」を作ることになりました。この製作について、おいでん・さんそんセンターが関わり、一般社団法人ウッディーラー豊田をはじめ多くの団体がつながり、しきしまのシンボル貞観杉の製品が誕生しました。



貞観杉は、しきしまの家から徒歩5分ほどの場所にある杉本神明神社の入り口にそびえ立つスギの大木。国の天然記念物に指定されています。『神明神社沿革誌』の年表には「八五九 神木貞観杉このころ生える」の記載があり、平安初期からずっと地域を見守ってきたことがわかります。



お守りができるまでのストーリーが紹介されている「しきしまの家」Facebookページはこちら



(写真提供元 & 記事参考ユカキカク)

たくさんの方の手を渡り、たくさんの方の想いが込められた貞観千年守り

1



丸太のような貞観杉の枝

貞観杉の枝を板の形状に加工

八幡製材(旭地区旭八幡町)
鈴木禎一(ていいち)さん

「年輪がこれまで見たことがないくらい非常に細かい。加工作業は木に合わせて挽く面、厚みを決めてスピードを調整しながら行います」



2



板は材料用に加工され角材に

(一社)ウッディーラー豊田
代表理事 樋口真明さん

「市場に出回っている木であれば使える部位が多いですが、今回の貞観杉の枝は“あるものを活かす”ことが前提のため、材料取りが難しくなります」

*風に吹かれたり、雪が堆積したりすることで枝がしなり、木の内部に裂け目ができることがあり、これは、初めなくても木の乾燥で出てくることもあり、見極めながら角材にすることは、長年の経験がなければ困難だと言われています。

おつなぎ
しました



3



使える部分と使えない部分を見分け、丸ノコで切り出す

(株)M-easy木工部門KIDÉE(キデー)スタッフ

山田尚晃(なりあき)さん

「年輪が細かいので、物理的に重いということもありますが、やはり存在自体が重厚。人に例えるなら、昔写真で見たことのあるシワがたくさん入ったネイティブアメリカンの長老のような印象を受けます」

おつなぎ
しました



7

しきしまの家やイベントで販売



5

キーホルダーの部品を付けて焼印を押す

春野工房 Yさん

「ボンドを入れてからすぐにネジをねじこむと穴からボンドがあふれやすいので、表面が少し乾いたくらいを見極めて入れます」

おつなぎ
しました



4

一片の材を2つにカットし、木片を磨き上げる

就労継続支援B型事業所よりみち(足助地区北小田町)

副代表 鈴木悠太さん

「旭中学校の生徒さんがアイデアを出したものの製作に携わることができて、とてもありがたく思っています。地域を身近に感じられる作業に、利用者さんたちもやる気で取り組んでいます」



6

検品をして包装

しきしまの家で検品、1セットずつの梱包をして完成!



やすりがけの作業が大好き



つながる力でミライを変える。

おいでん・さんそんセンター

TEL.0565-77-4203

Mail:info@oidensanson.com

〒444-2843

豊田市旭八幡町堂山432-3(つくラッセル1階)

